

# 環境に配慮したこれからの生活

お金を出して、物やサービスを得る消費生活では、必ずといってよいほどゴミが生じる。資源の少ない日本の現状において、循環型の社会のあり方はますます重要になる。中学生としてゴミ分別を通して、循環型社会の一員として積極的にかかわっていける実践的な素養を育むことが重要になる。そこで、本題材では、消費や環境に関する実践的・体験的な学習活動を通して、消費生活と環境について基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、消費者としての自覚を高め、身近な消費生活の視点から持続可能な社会を展望して、環境に配慮した生活を主体的に営む能力と態度を育てることを目標としている。また、北海道という地域性を生かし、特に冬期における環境に配慮した生活の仕方の工夫を考えていくことで、より学んだことと自分の生活とのつながりを実感させていきたいと考えている。

## 1. 学習内容

本題材における学習指導要領での内容は以下の通りである。

### D 身近な消費生活と環境

- (1)家庭生活と消費について、次の事項を指導する。
- ア 自分や家族の消費生活に関心をもち、消費者の基本的な権利と責任について理解すること。
  - イ 販売方法の特徴について知り、生活に必要な物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができること。
- (2)家庭生活と環境について、次の事項を指導する。
- ア 自分や家族の消費生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活について工夫し、実践できること。

本題材の学習内容は次の3点である。

- 環境に配慮した消費生活についての基礎的・基本的な知識及び技術を、実践的・体験的な学習活動を通して習得する。
- 上記の学習をすすめる際に、仲間との話し合いを通してこれからの社会を展望して、環境に配慮した生活を主体的に営むことの大切さを理解する。
- 循環型社会を目指して、生活のあり方を工夫し、限りある資源を有効に利用するための実践ができるようになることをねらいとする。

また、本題材を第1学年で学ぶことで、生徒が今後の家庭分野の学びの全てにつながることを意識しながら学びをすすめていくこともねらいとしている。

## 2. 題材構成

題材：環境に配慮したこれからの生活（全6時間）

- ・自分や家族の消費生活が環境に与える影響について関心をも

ち、環境に配慮した消費生活を実践しようとしている。

[関心・意欲・態度]

- ・自分や家族の消費生活を点検し、環境に配慮した消費生活について考えたり、実践を通して自分なりに工夫したりしている。[工夫し創造する能力]
- ・自分や家族の消費生活が環境に与える影響について理解している。[知識・理解]
- ・環境に配慮した消費生活に関する知識を身に付けている。[知識・理解]

時数	主な学習内容
1	○環境に配慮して生活するという点について、互いの考えを交流し、今後の学びの見直しをもつ。 発問:実際にゴミを分別して気付くことにはどんなことがあるだろうか。 ○「札幌市のゴミ分別」:札幌市のゴミ分別に従い持ち寄ったゴミを分別し、そこから気付いたことをまとめる。 ・ゴミによっては、どのように分別したらよいか戸惑うこともある。 ・ゴミの分別に意味があるのかを考えてしまう(分別しなくてもよいのでは?)など。
2 3	[課題] ゴミの分別は環境に配慮した生活とつながっているのだろうか。 ○札幌市発行の「ゴミ分けガイド」及び「札幌市のリサイクル」を使用し、環境に関する基礎的・基本的な知識を習得する。 ※この学習を通して、消費者が積極的に協力することで、円滑な循環型社会の一端を担えることを実感できるようにする。また、家電、蛍光灯、家具などのリサイクルや、それぞれの清掃工場で焼却時の熱を、発電、熱暖房、融雪に利用していることも学ぶ。
4 5	○環境に配慮した生活を送るための実践計画(家庭・学校・地域)を立て、1か月間の実践を行う(6月に実践)。
6	○実践結果から成果と課題を交流し、さらによりよい環境に配慮した生活を送るための計画を考え実践する(夏休みや冬休みに実践)。

